

リーサスを活用した政策立案ワークショップを開催しました

観光や農業政策に携わる職員を対象に、「地域経済分析システム（RESAS）」を活用した政策立案ワークショップを下記のとおり開催しました。観光分野の専門家である公益財団法人日本交通公社 山田 雄一主席研究員の参加を得て、花巻市の課題を見える化し、密な意見交換を通じ、職員が地域経済分析に加えてマーケティングの視点を取り入れた政策を企画・立案すること等の重要性を考える契機となりました。

記

1. テーマ : 「観光」

- (1) 花巻市の産業や地域資源の特徴を生かした観光政策のあり方の検討
- (2) 農畜産物の高付加価値化を目的とする部局間連携政策のあり方

2. 日時場所 : 平成28年7月21日(木) 8:40~12:20

花巻市生涯学習都市会館(まなび学園) 講座室

3. 主催 : 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局

共催 : 経済産業省東北経済産業局

4. 参加者 :

- ・花巻市職員(商工労政課、観光課、農政課、秘書政策課)
- ・公益財団法人日本交通公社 主席研究員 山田雄一氏
- ・内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局職員
- ・経済産業省地域経済産業グループ職員
- ・内閣府沖縄総合事務局経済産業部職員
- ・経済産業省東北経済産業局職員

5. 議事次第

- ① 自治体職員によるリーサス分析結果発表
- ② 有識者によるリーサス分析結果発表
- ③ 政策ディスカッション

1. ワークショップ実施の背景

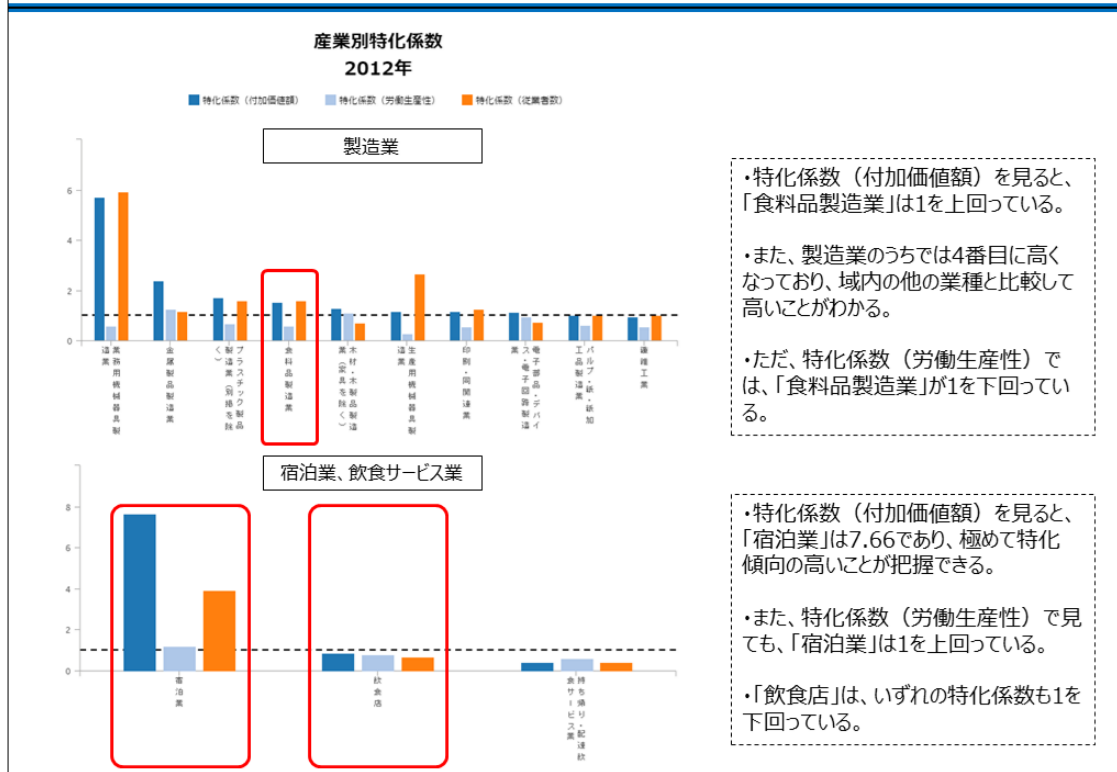
- 花巻市は、東北有数の温泉地、ユネスコの無形文化財遺産に登録された早池峰神楽、詩人・童話作家である宮澤賢治の出生地であることから、花巻温泉郷を核とする宿泊業が地域の主要産業となっている。他方で、地域の基幹産業である農業をはじめ、地域の他の産業への波及が課題となっている。
- そこで、リーサスや他の統計データを活用した分析によって花巻市の観光関連産業や農業を客観的にとらえ、地域により波及する産業政策のあり方についてディスカッションを実施した。

2. 議論のポイント・得られた結論・今後の展開

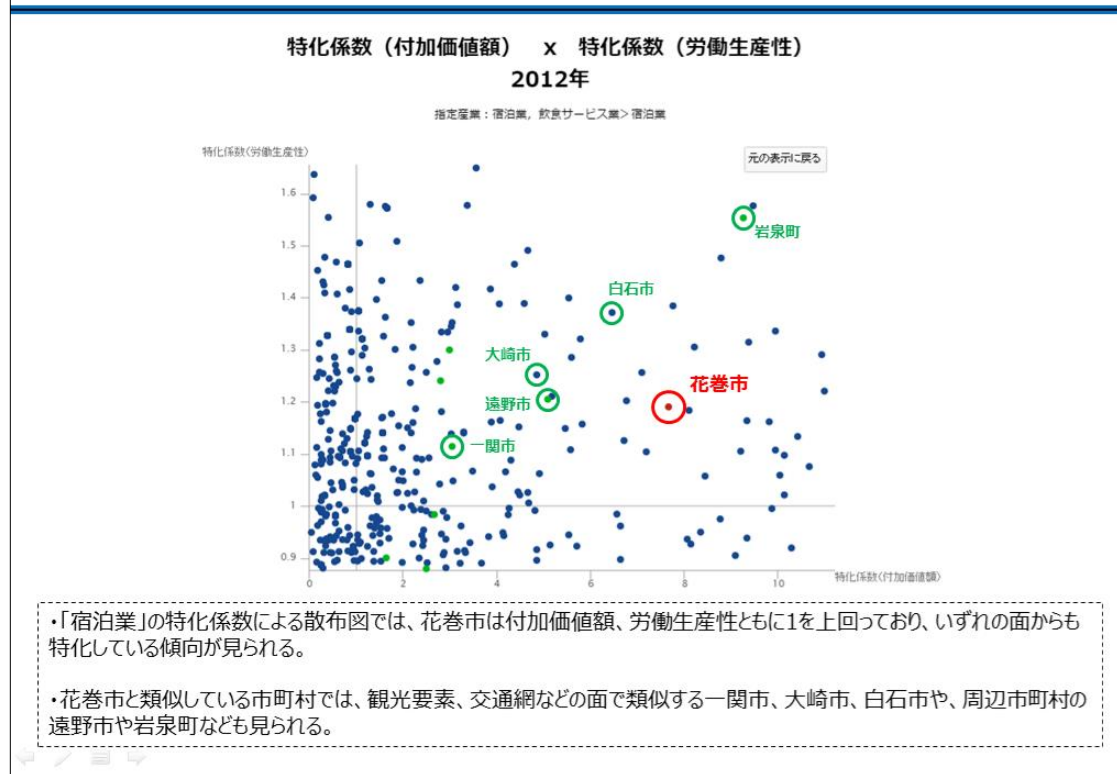
- リーサスの目的地分析や実際の入込客数の把握により、花巻市では花巻温泉郷を目的とした観光客が圧倒的に多く、集客力を有していることが分かった。
- 産業面では、「温泉地を抱える自治体」との比較においても、花巻市の宿泊業は従業者数・売上高・付加価値額等の割合が高く、強みを有することが分かった。他方、観光関連産業である食料品製造業の域内での取引は僅かであり、波及効果が弱いことが分かった。農業では、稲作、麦類作、雑穀・いも類・豆類、果樹類に特化した傾向が見られた。
- 花巻市の産業構造は、宿泊業や飲食業等の従業者数、売上高等が高く、観光に対応した産業構造となっており、「規模の経済」を発揮している状況にあるが、生産性に注目すると必ずしも高位ではない。
- 観光関連産業に着目すると、域内仕入のサプライチェーンが弱い。これは小規模農家にとって安定供給することが難しいため。これに対し、法人化等により経営基盤を強化すれば、需要側の安定供給の要望にも応えられる可能性がある。
- 生産性を高めるには、季節変動、曜日変動を抑えていくことが重要。対応策としては、オフシーズンにおける MICE（ビジネスイベント）の宿泊需要を取り込むことが有効ではないか。また、近県に留まっている集客圏を拡げていくことも、稼働の平準化に有効ではないか。
- インバウンドについては、総量は今後も増大する見込みであり、中期的な視点に立って対応策を検討することが求められる。
- 複数の課題がある中で、まずは課題設定の明確化を行い、取り組んでいく必要がある。特に、客層のターゲティングとそれ合わせたプロモーションを展開するといったマーケティングの視点は重要。
- 域内取引強化の観点では、特に食料品製造業への支援については外部専門家の協力も得ながら、部局横断での取り組みを強化する必要がある。
- 市内の農商工連携の事例である「稗カレー」は、稗のアレルゲンフリーという特徴や小麦の代替食品としての訴求性など、更なる発展の可能性がある。
- リーサス以外の情報も組み合わせながら環境分析を行い、戦略を立案することが必要。そのためにも、財源・権限・責任を明確化した上で、3～5年の中期的な視点での戦略立案と実行を担う体制整備を検討すべきではないか。

3. 自治体職員によるリサーチ分析内容

2. 花巻市における観光関連産業の現状 – 産業別特化係数

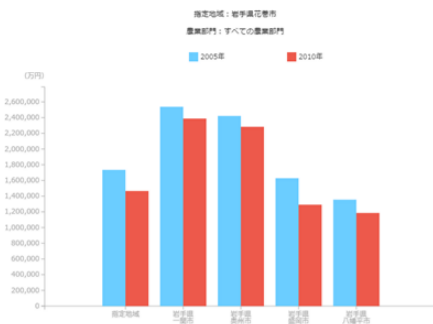


2. 花巻市における観光関連産業の現状 – 産業別特化係数「宿泊業」



3. 花巻市における農畜産業の現状 – 農産物販売金額 [県内比較]

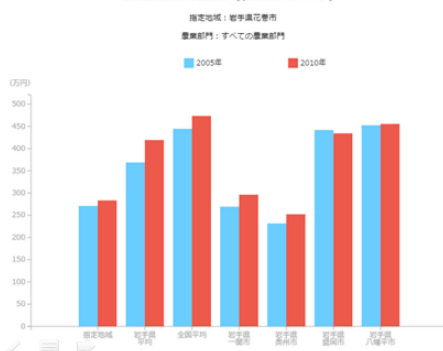
農産物販売金額（総額）



【岩手県内市町村別 農産物販売金額 順位】

順位	市区町村名	販売金額 (万円)	順位	市区町村名	販売金額 (万円)
1	一関市	2,388,300	11	金ヶ崎町	679,550
2	奥州市	2,283,175	12	紫波町	658,475
3	花巻市	1,465,900	13	九戸村	601,250
4	盛岡市	1,291,050	14	遠野市	594,575
5	八幡平市	1,186,200	15	一戸町	577,150
6	二戸市	1,028,150	16	軽米町	566,275
7	岩手町	967,525	17	葛巻町	489,675
8	洋野町	953,125	18	矢巾町	486,425
9	北上市	901,700	19	滝沢市	461,500
10	雫石町	800,775	20	住田町	455,100

農産物販売金額（経営体あたり）



・岩手県内市町村における農産物販売金額を見ると、一関市が最も高く、花巻市は3番目となっている。

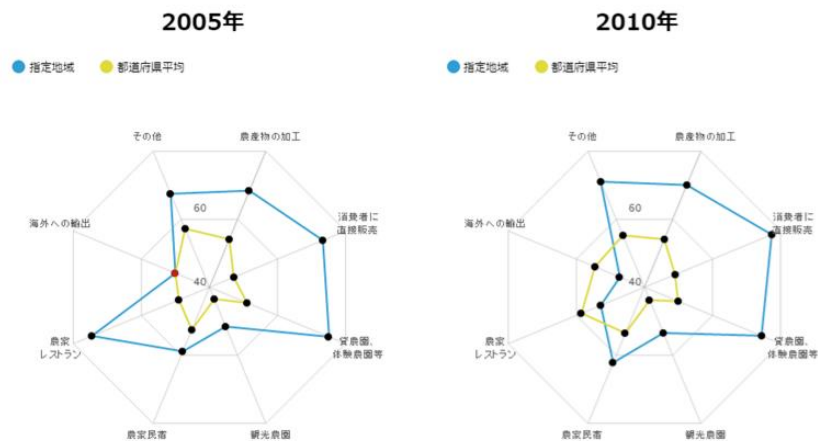
・販売金額上位5市（一関市、奥州市、花巻市、盛岡市、八幡平市）では、2005年から2010年にかけて、花巻市を含む5市全てで減少している。

・また、上位5市における経営体あたりの販売金額を見ると、花巻市は岩手県平均、全国平均を下回っている。

3. 花巻市における農畜産業の現状 – 農業生産関連事業

農業生産関連事業の実施状況（レーダーチャート）

指定地域：岩手県花巻市



・農業生産関連事業のレーダーチャート（偏差値）を見ると、全体的に岩手県平均よりも高い水準であることが読み取れる。事業別で見ると、2005年と2010年のいずれも、「消費者に直接販売」、「貸農園、体験農園等」、「農産物の加工」などが特に高くなっている。

・一方で、偏差値の低い事業としては、2010年に、「海外への輸出」、「農家レストラン」が岩手県平均を下回っている。